

1 学校教育目標

○かながえて ○めあてをもって ○たくましく 友だち思いの亀田の子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	・学力の向上に取り組む学校 ・心の教育に取り組む学校	・目標を掲げて取り組む学校 ・体力の向上に取り組む学校
○児童・生徒像	・粘り強く学習する児童 ・友達を大切にする児童	・めあてをもって取り組む児童 ・健康づくりにはげむ児童
○教師像	・考える授業を展開する教師 ・一人一人を大切にする教師	・認め励まし伸ばす教師 ・子どもと共に汗を流す教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

令和3年度は3学級減となり全校で23学級とコミュニケーション教室「かがやき教室」の編成、全校児童数819名でスタートした。素直で、優れた能力をもつ児童が多い。一方で自己肯定感が低い児童や基本的な生活・学習習慣が十分に定着していない児童もいる。二極化の傾向がある。

保護者・地域は学校に協力的であり、PTA、開かれた学校づくり協議会の活動が効率的に運営されている。

【前年度の成果と課題】

○学力の確実な向上

授業改善やパワーアップタイム、放課後補充教室、家庭学習提示の工夫、ステップ学習等の学力向上の取組が、学力向上委員会を中心に組織的に実施できた。その成果(区調査目標通過率 国語92.6% 算数91.2%)がでてきている。しかし、約10%の児童は区の目標値に達することができていない。今後も個の習熟度やつまずきに応じた指導に取組み全児童に基礎学力を確実に定着させると共に、思考力、表現力、学びに向かう力を高めていく。

図書館の改装や図書支援員による環境整備、読書旬間等の啓発活動により読書に関する意欲が高まってきている。今後も読書に関する取組を充実させていく。

○豊かな心の育成

児童の自己肯定感・自尊感情を高めるために、自分の良さや友達の良さに気付き・認められる教育活動を重視してきた。また、教員の人権感覚を磨き、児童に寄り添いながら豊かな心を育てられる生活指導にも取り組んできた。しかし、感染防止のため行事や特別活動が制限され、計画していた活動が実施できないことが多かった。「自分が好き」70%→72%「よいところ・得意なことがある」91%→92%と自己肯定感・自尊感情に関する肯定的評価は昨年度とほぼ同じ結果となった。課題だった「進んであいさつ」は改善されてきた(自己評価81%→88% 地域・保護者評価84%→85%)。

○体力の向上

体力向上委員会が中心となり実技研修を実施したり、体育の授業改善(感染対策を配慮してできる運動)に取り組んだりした。また、持久走・短縄旬間も実施方法を工夫して実施した。感染防止のため多くの制限があったが児童は楽しく運動に取り組むことができた。体力・運動能力調査では、男女とも全種目において区の平均を超えた。全国と比較すると、投力が課題となっている。今年度も継続して体力向上に取り組んでいく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	◎	◎	◎	◎	◎
2	豊かな心の育成	○	◎	◎	◎	○
3	健康な体づくり、体力の向上	○	◎	◎	◎	◎

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎的・基本的な学力の定着 学びに向かう力の育成		区学力調査通過率 85%以上 学期末テスト 全学年目標値通過率 80%以上		令和4年度区学力調査通過率 国語 93.5% 算数 93.9% 2教科 93.7%		区調査通過率が2年連続で90%を超えた。 低、中学年での定着が確実になっている。高 学年になっても学習意欲が低下していない。		◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継続	パワーアップ タイム	全児童 国語 算数	毎週 火、金 始業前 10分	【指導体制】担任 【ねらい・目的】 既習内容の復習・確認を行う 【使用教材】 漢字、計算等のプリント	1か月に1回、 ミニテストを 実施	ミニテスト 正答率 80%以上 の児童 90%以上	漢字、計算力が向上し た。ミニテスト正答率 目標値を超えた。	後期からはA Iドリ ルとαドリルを活用 し、個に対応できた。	◎
継続	放課後 補充教室	区調査 国語・算数 の正答率 70%未満 の児童 単元テス トの正答 率 70%未 満の児童	毎週 金曜日 放課後 20分 (教科 は個に 応じて)	【指導体制】 担任+専科+管理職 【ねらい・目的】 つまずきをさかのぼり 個別もしくは少人数指導 (進度は個で異なる) 【使用教材】 ベーシックドリルA Iドリル 次へのステップ 等	定着度確認 テスト 10月、2月 2回実施	国語 算数 定着確認テスト 10月 2月 対象児童が 正答率 70%以上 を 80%以上	定着確認テスト 目標達成率 6月 67% 12月 86%	組織的な指導体制で 取り組むことによ り、個に応じた指導 ができた。児童も意 欲的に取り組んだ。	◎

継続	家庭学習習慣の定着	全児童	毎日	【ねらい・目的】 家庭学習の定着を目指す。学年に応じた目標時間の設定。目標時間に応じた課題の提示。提出できない児童に対しては、その日のうちに課題に取り組ませる ※中、高学年児童は自学自習にも取り組む	宿題提出 状況調査 11月	宿題提出率 90%以上	宿題提出率 95%	提出率が昨年度より3ポイント下がった。中学年での課題提示や自主学習に取り組ませ方を改善していく。	○
継続	ステップ学習	全学年 国語・算数	年30 時間 程度	【指導体制】 担任+専科+管理職 【ねらい・目的】 既習内容の復習や発展的内容に取り組む。 【使用教材】 A Iドリル eライブラリ	学期末テスト	学期末テスト 正答率 低学年 80%以上 中学年 80%以上 高学年 75%以上 の児童80%以上	目標正答率通過 低…93% 中…84% 高…88%	組織的な体制で取り組めた。学習材も習熟度に応じたものになってきた。	○
継続	I C T の効果的な活用	全学年 全教科・領域	通年	【指導体制】 全教員 【ねらい・目的】 授業、学力向上の取組においてI C Tを効果的に活用。児童がクロムブック等を効果的に活用できる力を身に付けさせる。	児童、教員の活用状況調査	・学年に応じたI C T操作に関わる技能を身に付ける95%以上 ・I C Tを効果的に活用して学習できる児童90%以上 ・A Iドリル活用 補充教室 毎回 家庭学習 毎日	学年に応じたI C T操作に関わる技能の定着95%。低学年でもほとんど全員が身に付けている。 活用できる 95% 好き 92% ・A Iドリル日常的活用100%	授業でも家庭学習においてもI C Tを活用した学習に取り組むことができた。学習内容や習熟度に応じて有効に活用していくことが課題。	◎
継続	チャレンジスクール(サマースクール)	全学年 国語・算数 各学年10名程度	長期休業期間中の10日間 1日45分	【指導体制】 担任+専科+管理職 【ねらい・目的】 当該学年の復習や過去の学年にさかのぼったつまずきの解消。 【使用教材】 プリント教材 A Iドリル等	チャレンジスクール終了後テストの実施	確認テスト 正答率80%以上 つまずきを解消した児童80%以上	つまずきを解消した児童90%	担任、専科、管理職ボランティアで組織的な指導体制を整備した。個の習熟度に応じた指導ができた。	◎

重点的な取組事項－ 2		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感・自尊感情、規範意識を高める		自己肯定感に関する調査 全項目肯定的回答 85%以上	「学校は楽しい」 90% 「自分が好き」 79% 「よいところがある」 92%	自分が好き 79% 目標を達成できなかった。しかし、自己肯定感に関する意識が昨年度より高まってきている。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感の向上	「学校は楽しい」 自己評価 90%以上 「自分が好き」 自己評価 80%以上 「よいところがある」 自己評価 90%以上	・ふれあい月間の取組 年3回 ・道徳授業の充実 ・「自分の好きなこと」「自分が得意なこと」へ挑戦 クラブ、委員会活動の充実 ・課外スポーツクラブ 琴、尺八クラブ ダンスクラブ サッカー等	・ふれあい月間予定通り実施 ・道徳の授業改善の研修実施 「学校は楽しい」 90% (+1) 「自分が好き」 79% (+7) 「自分にはよいところ」 「得意なことがある」 92% (0) ・課外クラブ活動 感染対策を講じながら実施	・少しずつであるが自己肯定感が高くなってきた。今後も、よさを認め、褒める指導。自分の得意なこと、好きなことに挑戦できる機会を設定していく。	○
心を育てる生活指導、特別活動の充実	生活規律に関する 自己評価 肯定的評価 85%以上 保護者アンケート 肯定的評価 80%以上	・児童による挨拶運動の実施 ・縦割り班活動の充実 ・生活習慣調査の実施	生活規律関しての肯定的評価 児童自己評価 90% 保護者、地域評価 91%	生活指導に関する取組や特別活動により、規範意識が高まってきた。高学年が手本となっている。	○
読書活動の充実	目標冊数・目標ページ 達成 90%以上	・読書旬間 年3回 ・読み聞かせ ・図書支援員と連携した 図書室の整備 ・本の貸し出し方法の改善 ・探究学習の推進	一人あたり年間貸出冊数 4月～9月では 30.96冊 読書旬間 目標冊数・ページ数 目標達成 80%	貸出冊数に制限がなくなった。読書好きの児童が増えた。目標冊数やページ数を検討する必要がある。	○

重点的な取組事項－3		健康な体づくり、体力の向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
規則正しい生活習慣の定着 体力の向上を図る		運動が好き 85%以上 運動・体力調査 全種目区平均値以上 規則正しい生活習慣定着 80%以上	運動が好き 86% 体力調査 区平均以上 男子 44/48 女子 39/48 種目 規則正しい生活習慣定着 83%	体力向上委員会を中心に児童の実態に応じた体力向上の取組が実施できている。その成果がでている。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
健康な生活習慣の 確立 体力向上	運動が好き 85%以上 早寝・早起等規則正しい生活習慣定着 児童、保護者評価 80%以上 運動・体力調査 全種目区平均以上	・長期休業明け生活振り返り ・養護教諭・栄養職員による食育・健康指導 ・家庭への働きかけ（保護者会、通信、HP） ・外遊びの奨励 ・全校体制による体育的取組 ・体力調査の結果をもとにした授業改善	・早寝 早起き 76% 朝ごはん 89% ・食育・健康指導 全学年で実施 ・組織的な体力向上の取組 持久走旬間 縄跳び旬間 体育授業の改善に取り組んだ。 運動が好き 86%	体力調査の結果をもとに授業改善、体力向上に取り組んできた成果がでてきている。家庭における基本的な生活習慣の定着と運動習慣の啓発に取り組んだ。保護者が協力的である。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

- ・基礎学力が確実に定着してきたが、国語では読解力、記述する力が課題となっている。低・中学年では、初見短文の音読と読み取りに取り組む。高学年では、キーワードやキーセンテンスを活用して文章の構成を的確に捉えたり、意見・感想を記述したりする学習に取り組んでいく。
- ・自己肯定感をより高めていきたい。一人一人のよさを認め、褒める指導、互いのよさに気付ける場の設定、好きなこと、得意なことに挑戦できる機会を多く設定し、児童の自己肯定感をさらに高めていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

今年度は感染防止の対策を講じながら、授業公開や運動会を実施することができました。ようやく保護者・地域の皆様に、子供たちの学校での様子を実際に参観していただくことができました。また、行事や授業診断アンケートでは、肯定的評価、建設的かつ具体的なご意見を多数いただきました。ありがとうございました。頂いた評価、ご意見を真摯に受け止め、教育活動の改善・充実に取り組んでまいります。

(3) その他（学校教育活動全般について）

今後も感染防止対策を講じながらの学校生活が続くことが考えられる。教育活動には様々な制限が余儀なくされるが、指導方法や実施方法を工夫し児童が安全に楽しく学び、充実した学校生活が過ごせるようにしていく。行事等も状況に応じた内容や方法を工夫し実施していく。

